構造転換期の中国における省間流動人口の増加と空間特性

陳　　林

【キーワード】流動人口、空間特性、中心部、周辺部、中国

Ⅰ．はじめに

1990年代初期以降、市場経済への移行に伴い、中国経済は急速に発展してきた。その発展は地理的優位性をもつ沿海部を中心に進んできた。沿海部は外国直接投資の増加により雇用機会が急増した。一方、内陸部は市場原理のもとで、政府の関与によって発展してきた都市経済や国有企業の停滞により、雇用機会が縮小した。そのため、内陸部農村地域の住民は就業を求め、主に沿海部での就業を目的として移動した。内陸部からの農村労働力の供給は近年の中国経済の継続的な発展を支えてきたといえる。

21世紀に入ると、中国においては労働集約型産業の国際競争力を基礎とした輸出牽引型経済発展が一定の歴史的な役割を果たし終え（佐々木、2010）、新しい経済構造への転換が進行している。東部沿海地域は労働力の不足に伴う賃金の上昇、土地価格の高騰により産業構造のアップグレードと高度化が図られている。その一方で、労働集約型産業は低賃金労働力を求めて、内陸部の都市地域への拡大もみられた。上記のような中国における経済空間の再編は、労働力の移動およびその配置にも大きな影響を与えていると考えられる。

石川（2001）は一国の人口変動の空間的なパターンを検討するには国土を中心部と周辺部に分類して議論することが重要であると指摘した。これまで、中国における人口移動の空間特性に関して多くの研究がなされた。2000年以前の中国人口移動の特性に関する研究は、1985年から2000年までの人口センサスを比較したShen（2010）、1990年と2000年の人口センサスデータに基づいて、省間人口移動の特性を検討したFan（2005）があげられる。これらの研究によると、いずれの時期においても沿海部が流動人口の重要な転出先であり、地域の経済格差が省間の人口移動の増加をもたらしたことが判明した。加えて、流動人口と定住者の目的地選択を検討したLiu & Xu（2017）も流動人口が南東部の諸省への集中がみられ、定住者は西南部や中南部への移動が盛んであることを報告した。一方、2000年代以降の人口移動に関する研究は、流動人口の地域的特性を検討したLiu et al.（2011）、Liu et al.（2014）とHe et al.（2016）が注目される。これらの研究によると、2000年代以降急激な都市化・工業化の影響によって、流動人口は国内の周辺部から中心部への移動を促し、特に標高の低い東部地域に流動人口が集中していることが明らかに

なった。

以上の諸研究は人口センサスデータに基づいて、中国を沿海部と内陸部、あるいは、東部地域[1)]、中部地域[2)]、西部地域[3)]、東北地域[4)]に分類して人口移動の空間特性を論じた。しかし、このような地域区分は2000年代以降の中国における人口移動の多様性を把握できていない。というのは、中国の人口移動は先行研究に指摘されたような内陸部から沿海部への人口集中だけでなく、劉ほか（2005）やLiu et al.（2015）が指摘したように、各省の省都及び都市部も流動人口の受け皿となっているからである。また、四川省と広東省を事例に中国の人口移動を論じた陳（2014）も四川省の人口転出が広東省から上海市をはじめとする長江デルタへシフトする傾向がみられ、東部地域における労働力の奪い合いが進んでいることを指摘した。そのため、近年の中国における人口移動の空間変動を明らかにするには、地域を細分化して再分類する必要がある。

以上のことから、本稿は戸籍制度が緩和された2000年代以降、中国における経済構造の転換が省間流動人口の空間分布にいかなる影響を与えたのかを明らかにすることを目的とする。本稿は人口センサスの定義に基づき、流動人口を戸籍の転出を伴わず、戸籍所在地の郷鎮から半年以上を離れたものとする。使用されたデータは主に2000年及び2010年の人口センサスデータである。

本稿の構成は以下の通りである。第Ⅱ章は中国の地域区分及び流動人口の特性を考察する。第Ⅲ章は地域別に流動人口の変動及びその地域間関係を分析する。第Ⅳ章は省ごとに流動人口の排出圏と吸引圏から流動人口の空間的特性を抽出する。最後は上記の分析結果をまとめ、今後の研究課題を提示する。

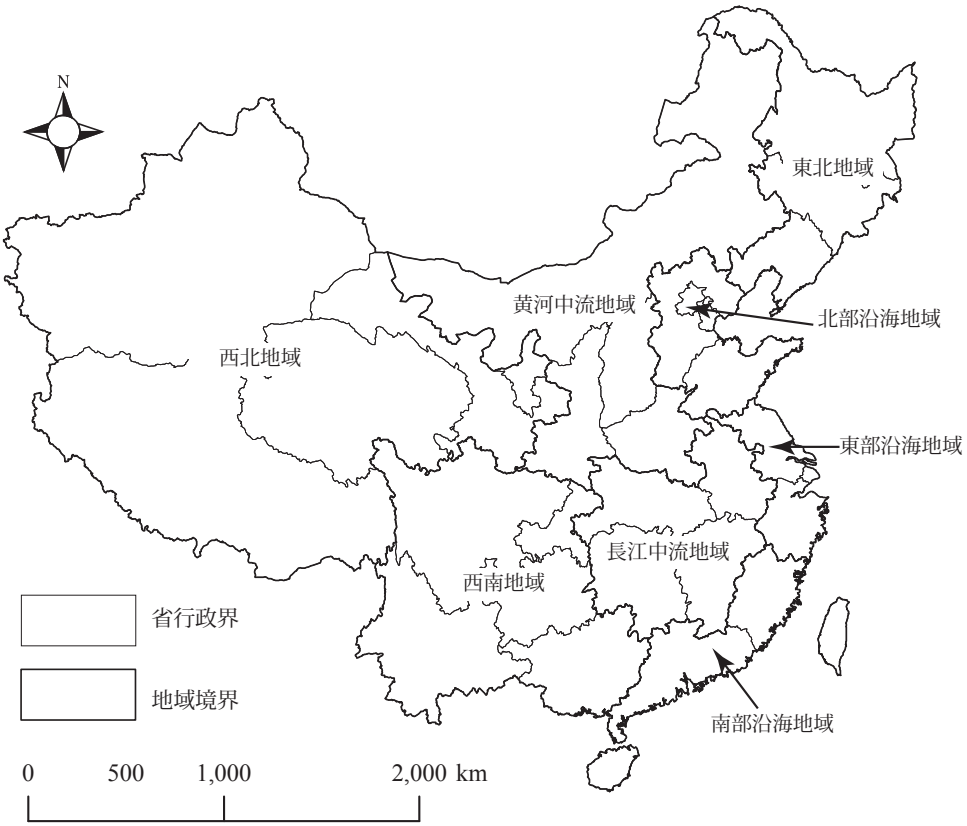
Ⅱ．中国の地域区分と人口変動

１．地域区分

これまで中国の地域区分は主に東部地域、中部地域、西部地域、東北地域に分類されている。その中で、東部地域は中心部、中部地域、西部地域と東北地域は周辺部と位置付けられている（加藤、2003）。しかし、この地域分類は近年中国の東部地域における労働力の奪い合いをはじめとする人口移動の地域変動を把握できていない。そのため、本稿は以上のことを踏まえて、中国を下記の８つの地域に区分した（第１図）。その中で、北部沿海地域、東部沿海地域と南部沿海地域を中心部とし、それ以外の地域は周辺部と定義する。

中心部は北部沿海地域、東部沿海地域、南部沿海地域の３つの地域から構成される。その中で、北京市、天津市、河北省及び山東省から構成される北部沿海地域はハイテク製造業の生産及び開発が進んでいる。上海市、江蘇省及び浙江省から構成される東部沿海地域は多様な製造業が発達し、経済競争力が強い地域である。広東省、福建省及び海南省により構成される南部沿海地域は輸出指向型経済が盛んである。

周辺部は東北地域、黄河中流地域、長江中流地域、西北地域と西南地域の５つからなる。その



第１図　中国における地域の区分とその位置
注：台湾、香港、マカオを除外した。
資料：著者作成。

中で、東北地域は遼寧省、吉林省及び黒竜江省からなり、自動車産業を中心とする機械製造業が発達し、農業生産の機械化も進んでいる。しかし、近年国有企業の改革が進んでおらず、経済の停滞及び人口の流出が特徴である。

従来の中部地域は大まかに黄河中地域地域と長江中流地域の２つに分けられる。黄河中流地域は陝西省、山西省、河南省、内モンゴル自治区により構成される。この地域は炭鉱資源が豊富で、関連する製造業が発達している。しかし、近年炭鉱価格の低迷により、経済発展に苦しんでおり、人口の流出も増加してきた。長江中流地域は湖北省、湖南省、江西省と安徽省から構成される。この地域は稲作及び綿花などの生産基地であるが、湖北省のような自動車産業の発達により経済成長を遂げている省もある。

従来の西部地域は２つの地域に区分できる。西南地域は雲南省、貴州省、四川省、重慶市、広西チワン族自治区により構成され、典型的な人口転出地の１つである。その中で、近年化学工業

を中心に発展してきた重慶市と四川省もみられる。一方、甘粛省、青海省、寧夏回族自治区、チベット自治区及び新疆ウィル族自治区が構成される西北地域は中央アジアとの経済貿易が開始しているが、依然として経済発展が遅れている地域と位置付けられる。

２．省間流動人口の分布

第１表は2000年と2010年における省間流動人口の転出入を示したものである。これによると、2000年には南部沿海地域の広東省が最も多く、1,506万５千人の流動人口を吸収した。その次は368万９千人を吸収した東部沿海地域の浙江省である。流動人口が200万人を超えたのは北京市、上海市、江蘇省、福建省があり、いずれも中心部にある。そのほか、流動人口が100万人以上となったのは北部沿海地域の山東省以外に、周辺部の一部の省にもみられた。その代表としては経済発展が相対的に進んでいる東北地域の遼寧省、辺境開発が進んでいる西南地域の雲南省と西北地域の新疆ウィルグル族自治区の３つである（石原、2004）。

一方で、省間流動人口の転出は主に周辺部に集中する。その中で、転出が最も多いのは西南地域の四川省であり、693万８千人に達している。次いで長江中流地域であり、湖北省を除く３省はいずれも300万人を大きく超過した。また、黄河中流地域の河南省も300万人の転出がみられた。それ以外では、雲南省を除く西南地域の４省、東北地域の黒竜江省も100万人以上の転出となっている。しかし、省間の流動人口の転出は周辺部の地域だけでなく、中心部の一部の省にもみられる。例えば、北部沿海地域の河北省と山東省、東部沿海地域の江蘇省と浙江省はいずれも転出が100万人を超過している。

続いて、2010年の転入をみると、中心部は依然として圧倒的に多くの省間流動人口を吸収している。その中で、南部沿海地域の広東省、北部沿海地域の北京市、東部沿海地域の上海市、浙江省と江蘇省はいずれも700万人以上であり、流動人口の受け皿となっている。それ以外では、一部の周辺部においても転入の激しい省がある。2000年に多くの転入がみられた遼寧省、雲南省と新疆ウィグル族自治区以外に、武漢市の所在している湖北省、成都市の所在している四川省も100万人以上の流動人口を吸収している。

一方、省ごとの転出をみると、2000年と同様に周辺部を中心とする流動人口の流出が観察される。その中で、長江中流地域、西南地域、黄河中流地域の河南省はいずれも300万人以上の転出がみられ、主要な転出地となっている。そのほか、中心部にある北部沿海地域の河北省や山東省、東部沿海地域の江蘇省も多くの転出がみられ、300万人を超過している。これらの省は省内の地域間経済格差が大きく、流動人口の転出と転入が並存していると考えられる。

第１表　中国における省間流動人口の転出入

（単位：千人）

地域	省	2000年			2010年		
		転入	転出	純移動	転入	転出	純移動
北部沿海地域	北京	2,463	92	2,372	7,045	274	6,770
	天津	735	82	653	2,992	273	2,718
	河北	930	1,219	−289	1,405	3,498	−2,094
	山東	1,033	1,105	−71	2,116	3,096	−980
黄河中流地域	山西	667	305	362	932	1,083	−152
	内モンゴル	548	505	43	1,444	1,068	377
	陝西	426	804	−378	974	1,961	−986
	河南	476	3,070	−2,594	592	8,626	−8,034
東北地域	遼寧	1,045	362	683	1,787	1,014	773
	吉林	309	609	−300	456	1,373	−916
	黒龍江	387	1,174	−787	506	2,554	−2,047
東部沿海地域	上海	3,135	143	2,992	8,977	250	8,727
	江蘇	2,537	1,716	821	7,379	3,059	4,320
	浙江	3,689	1,482	2,206	11,824	1,854	9,970
長江中流地域	安徽	230	4,326	−4,096	717	9,623	−8,905
	江西	253	3,680	−3,427	600	5,787	−5,187
	湖北	610	2,805	−2,195	1,014	5,890	−4,876
	湖南	349	4,307	−3,958	725	7,229	−6,504
南部沿海地域	広東	15,065	430	14,634	21,498	881	20,617
	福建	2,145	811	1,335	4,314	1,667	2,646
	海南	382	119	262	588	276	313
西南地域	広西	428	2,442	−2,014	842	4,185	−3,343
	重慶	403	1,006	−603	945	3,507	−2,562
	四川	536	6,938	−6,402	1,129	8,905	−7,777
	貴州	409	1,596	−1,188	763	4,049	−3,285
	雲南	1,164	344	821	1,237	1,482	−246
西北地域	チベット	109	20	89	165	55	110
	甘粛	228	586	−358	433	1,593	−1,160
	青海	124	95	29	318	242	76
	寧夏	192	90	102	368	226	143
	新疆	1,411	156	1,255	1,792	297	1,494

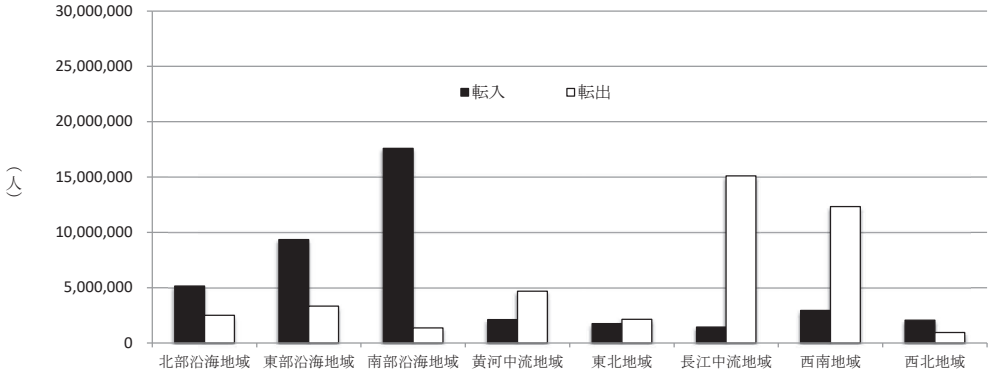
資料：中国2000年人口普査資料、中国2010年人口普査資料により作成。

Ⅲ．流動人口の地域変動

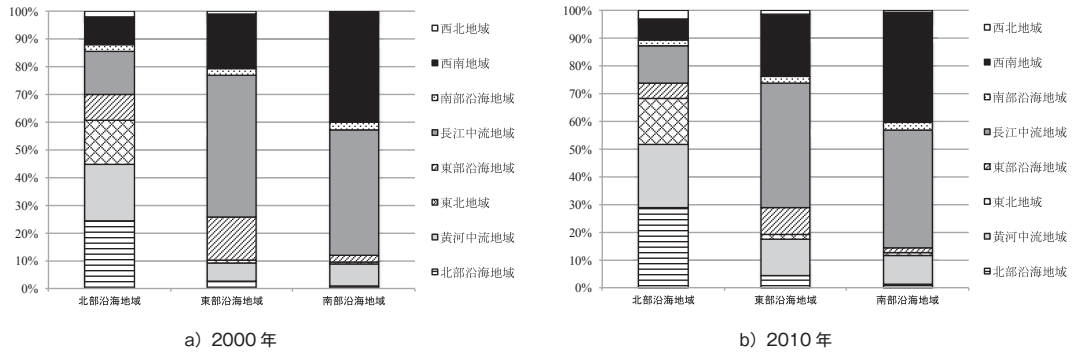
１．地域別にみた流動人口の変動

第２図は2000年の地域別にみた省間流動人口の転出入を示したものである。これによると、2000年には中心部にある北部沿海地域、東部沿海地域と南部沿海地域はいずれも大きな転入超過となり、大量の流動人口を吸引していた。その中で、南部沿海地域への流動人口は最も多く、約1,800万人に達している。一方、上記の中心部と異なり、周辺部に位置する地域はいずれも転出超過となっている。ただし、周辺部にある東北地域と西北地域は中国国土の周縁部にあるため、他地域との相互の人口移動も低調である。

省間流動人口の転入が激しい中心部はどの地域から転入しているのかを分析する（第３図）。2000年に最も多くの流動人口を吸引した南部沿海地域は主に長江中流地域と西南地域から転入し



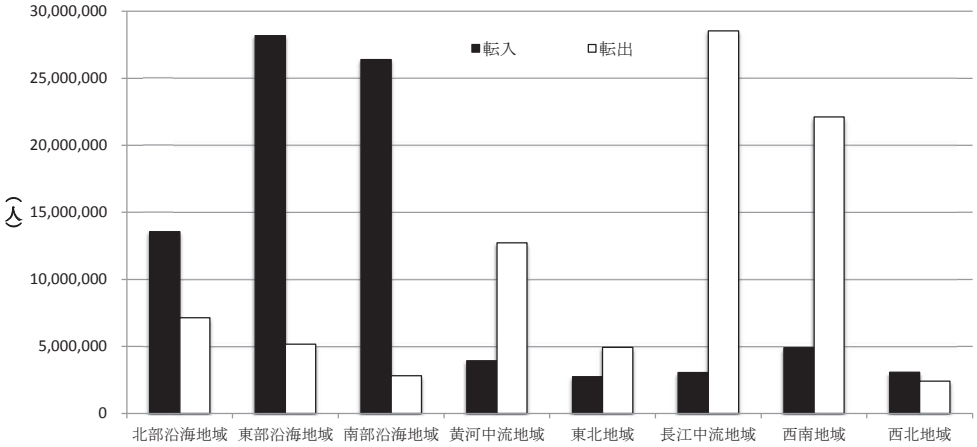
第２図　2000年中国の地域別にみた省間流動人口の転出入
資料：中国2000年人口普査資料により作成。



第３図　中国の中心部における省間流動人口の転入先
資料：中国2000年人口普査資料 , 中国2010年人口普査資料により作成。

た。東部沿海地域も基本的に南部沿海地域と同じく、長江中流地域と西南地域からの転入が多数を占める。ただし、東部沿海地域は地域内の他省からの転入も少なからず存在することが特徴である。しかし、上記の２つの地域と異なり、北部沿海地域の転入先は多様的である。流動人口が最も多く転入したのは同地域内の他省であり、次いで近隣の黄河中流地域と東北地域である。それ以外、周辺部の長江中流地域や西南地域からも少なからず転入がみられた。

2010年になると、地域を問わず、転出入の急増が観察された（第４図）。中心部の諸地域は2000年と同様に大きな転入超過となっている。ただし、2000年と比べ、東部沿海地域への転出は南部沿海地域のそれより多いことが特徴である。その一方で、周辺部の長江中流地域と西南地域は転出が急増し、大きな転出超過となっている。2000年に転出が相対的に少なかった黄河中流地域も流動人口の増加がみられた。これは近年鉱産物などの価格下落に伴い、鉱物資源に依存する当該地域の経済発展が停滞したためで、中心部への就業移動が増加していると推測される。



第４図　2010年中国の地域別にみた省間流動人口の転出入

資料：中国2010年人口普査資料により作成。

続いて、転入超過の中心部における転入先を考察する。第３図によると、南部沿海地域は2000年と同じく近隣の西南地域と長江中流地域からの転入が圧倒的に多い。その一方で、東部沿海地域は2000年と異なり、地域内の他省からの移動が減少した。代わりに、周辺部の長江中流地域、西南地域、黄河中流地域が主な転入先となっている。北部沿海地域は同地域内の他省からの転入が微増するが、近隣の黄河中流地域と東北地域、長江中流地域からの転出も増え、広範囲に及んでいる。

２．移動効果指数からみた地域間の人口移動

移動効果指数は、通常、純移動量（転入量と転出量の差）の絶対値を総移動量（転入量と転出

量の和）で除した形で表される（大友、1982）。ここでは、その移動流が、流入超過であるか、流出超過であるかが同時にわかるように、大友（1996）と石川（2001）と同様に、純移動量そのものを総移動量に除した形で表すことにする。

第２表は中国における地域別にみた移動効果指数の変化を示したものである。これによると、2000年には移動効果係数の最大値は96.0であり、最小値は6.7となっている。このように、両地域間の人口移動は一方的な移動と双方向的な移動に分化されている。ここでは転入地域と転出地域間の流動人口がどのような関係にあるのかを検討する。2000年には南部沿海地域と東部沿海地域はその主要な転入先がいずれも長江中流地域と西南地域となっている。第２表によると、南部沿海地域と両転入地域との移動効果指数はそれぞれ96.0と93.1であり、一方的な転入となっている。東部沿海地域と両転入地域の移動効果指数はそれぞれ90.0と78.3であり、南部沿海地域より若干弱いが、全体的に一方的な転入といえる。両地域にとって３番目の転入先の黄河中流地域をみると、移動効果指数はそれぞれ92.2と50.5に分かれている。このように、黄河中流地域から南部沿海地域への一方的な転出が特徴であるが、東部沿海地域との移動は双方向的に進んでいる。最後に、北部沿海地域と転入先の長江中流地域と西南地域の移動効果指数はそれぞれ88.1と76.0となり、一方的な転出となっている。近隣にある黄河中流地域と東北地域との移動効果指数はそれぞれ53.5と49.0であり、相対的に相互移動がみられた。

第２表　地域別にみた移動効果指数の変化

（単位：％）

転入地域	年	転出地域							
		北部沿海	黄河中流地域	東北地域	東部沿海地域	長江中流地域	南部沿海地域	西南地域	西北地域
北部沿海地域	2000	0.0	53.5	49.0	32.7	88.1	−16.9	76.0	13.8
	2010	0.0	65.0	71.0	−25.4	79.2	−6.7	67.6	40.4
東部沿海地域	2000	−32.7	50.5	−11.1	0.0	90.0	−23.7	78.3	−33.0
	2010	25.4	86.9	54.7	0.0	93.4	27.1	91.0	37.1
南部沿海地域	2000	16.9	92.2	63.3	23.7	96.0	0.0	93.1	54.9
	2010	6.7	90.5	69.8	−27.1	94.3	0.0	92.3	56.7

資料：中国2000年人口普査資料、中国2010年人口普査資料により作成。

続いて、2010年の状況を2000年のそれと比較して検討する。南部沿海地域と東部沿海地域の転入先は2000年と同じく長江中流地域、西南地域、黄河中流地域となっている。その中で、南部沿海地域と上記３つの転入先との移動効果指数はそれぞれ94.3、92.3、90.5であり、2000年より若干低くなったが、依然として一方的な転入が顕著である。東部沿海地域の場合はそれぞれ93.4、91.0、86.9となっている。その中で、黄河中流地域と西南地域における増加がみられ、一方的転入が強まっているといえる。一方、北部沿海地域と転入先の黄河中流地域、東北地域、長江中流

地域、西南地域の移動効果指数はそれぞれ65.0、71.0、79.2、67.6である。その中で、黄河中流地域と東北地域は移動効果指数の増加が認められ、一方的な転入が強化されている。一方で、長江中流地域と西南地域は移動効果指数の減少がみられ、一方的な転入が弱まっている傾向が読み取れる。

Ⅳ．流動人口における移動圏の変化

第Ⅲ章では、流動人口の転入者がどの出発地からやってきたのか、あるいは、転出者がどの到着地に向かったのか、すなわち、移動の空間的な問題について検討した。本章では中国における省間流動人口の移動圏の変化を分析する。流動人口の空間的な変化を捉えたいため、本稿はある省における他省からの転入者（他省への転出者）が全体の５％以上である場合を主要吸引圏（排出圏）と定義する。

１．主要吸引圏

１）2000年

2000年、省間流動人口の転入が激しいのは主に中心部の南部沿海地域、東部沿海地域、北部沿海地域、周辺部の遼寧省、雲南省、新疆ウィグル自治区である。第３表は2000年の省別にみた流

第３表　2000年中国における省別にみた主要吸引圏の分布

転入	省	転出																										
		北京	天津	河北	山東	山西	内モンゴル	陝西	河南	遼寧	吉林	黒竜江	上海	江蘇	浙江	安徽	江西	湖北	湖南	広東	福建	海南	広西	重慶	四川	貴州	雲南	チベット	甘粛	青海	寧夏	新疆
北部沿海地域	北京			○	○				○					○		○									○							
	天津			○	○				○			○				○																
	河北				○		○		○			○				○		○							○							
	山東								○		○	○		○	○	○																
東北地域	遼寧				○		○		○		○	○				○									○							
東部沿海地域	上海													○	○	○	○								○							
	江蘇								○						○	○									○							
	浙江								○							○	○	○	○						○	○						
南部沿海地域	広東								○								○	○	○				○		○							
	福建															○	○	○							○	○						
	海南																○	○	○	○			○		○							
西南地域	雲南														○				○					○	○	○						
西北地域	新疆								○							○									○				○			

注：○は主要吸引圏を指す。

資料：中国2000年人口普査資料により作成。

動人口の主要吸引圏の分布を示したものである。これによると、最も多くの省間流動人口の転入がみられた広東省は、その吸引圏が長江中流地域、西南地域、黄河中流地域に及んでいる。省別にみると、湖南省、四川省、広西チワン族自治区、江西省はそれぞれ広東省間流動人口の22.1％、18.9％、14.7％、10.7％を占める。一方、同じく南部沿海地域にある福建省はその吸引圏が長江中流地域、西南地域であり、うち近隣の江西省、西南地域の四川省はそれぞれ全体の31.3％と25.4％と圧倒的に多い。

東部沿海地域をみると、最も多くの流動人口を吸引した浙江省はその吸引圏が長江中流地域、西南地域、黄河中流地域となっている。その中、近隣の江西省と安徽省、西南地域の四川省はそれぞれ22.8%、21.2%、15.4% であり、全体の６割弱を占める。江蘇省の場合は長江中流地域の安徽省、西南地域の四川省が多く、両者合計で全体の半数以上である。上海市は周辺部の長江中流地域だけでなく、東部地域内の他省からも転入が多くみられる。特に近隣の安徽省、同地域内の江蘇省はそれぞれ全体の32.8％と23.9％と圧倒的に多い。

北部沿海地域に流動人口の転入が100万人を超えたのはわずか北京市と山東省のみである。その中で、最も多くの流動人口を吸引した北京市の吸引圏は、同地域内の河北省、黄河中流地域の河南省、長江中流地域の安徽省から構成され、それぞれ全体の22.5%、13.6%、9.3% である。山東省の場合は主に東北地域から来ており、全体の３割以上である。

上記の中心部以外に、周辺部にも一部の省は多くの流動人口がみられる。東北地域にある遼寧省の流動人口は主に同地域の吉林省と黒竜江省から来ており、それぞれ全体の16.6％と30.6％を占める。西北地域の新疆ウィグル自治区の吸引圏は主に西南地域の四川省、黄河中流地域の河南省、西北地域の甘粛省であり、三者合計で全体の７割弱を占める。西南地域の雲南省は同地域の四川省と貴州省からの転入が多く、それぞれ全体の40.9％と16.8％である。

２）2010年

第４表は2010年の省別にみた流動人口の吸引圏を示した。これによると、南部沿海地域の広東省と福建省の転入は依然として周辺部の長江中流地域、西南地域、黄河中流地域の河南省から多くみられた。広東省の流動人口は主に湖南省、四川省、広西チワン族自治区、湖北省から転入し、いずれも全体の10％以上を超えている。ただし、2000年と比べ、広西チワン族自治区を除くと、他の３省はいずれも割合が低下した。福建省の場合は依然として江西省、四川省からの転入が多いが、全体に占める割合が低下した。代わりに、貴州省からの転入は2000年の6.4％から2010年の10.9％へと大きく増加した。

東部沿海地域をみると、浙江省の吸引圏は2000年とほぼ同じく、新たに加わったのは西南地域の重慶市のみである。割合が10％を超えた省も安徽省、江西省、四川省、貴州省、河南省の５つまでに増えた。江蘇省の吸引圏は基本的に2000年と同じであるが、黄河中流地域からの転入増加

第４表　2010年中国における省別にみた主要吸引圏の分布

転入	省	転出																											
		北京	天津	河北	山東	山西	内モンゴル	陝西	河南	遼寧	吉林	黒竜江	上海	江蘇	浙江	安徽	江西	湖北	湖南	広東	福建	海南	広西	重慶	四川	貴州	雲南	チベット	甘粛	青海	寧夏	新疆
北部沿海地域	北京			○	○				○			○				○																
	天津			○	○				○			○																				
	河北	○			○		○		○	○		○													○							
	山東			○					○		○	○		○		○																
東北地域	遼寧				○		○		○		○	○																				
東部沿海地域	上海								○					○	○	○	○								○							
	江蘇				○				○							○		○							○							
	浙江								○							○	○	○	○					○	○	○						
長江中流地域	湖北								○						○	○	○		○					○	○							
南部沿海地域	広東								○								○	○	○				○		○							
	福建								○							○	○	○	○					○	○	○						
	海南								○								○	○	○	○			○		○							
西南地域	四川								○									○						○		○	○					
	雲南																		○					○	○	○						
西北地域	新疆							○	○															○	○				○			

注：○は主要吸引圏を指す。
資料：中国2010年人口普査資料により作成。

が特徴である。また、同じ地域にある浙江省からの転入が減っている一方、北部沿海地域の山東省は新たな吸引圏として加わった。転入が激しいのは安徽省、河南省であり、それぞれ全体の34.9％、13.8％である。一方、四川省の比率は2000年の11.8％から2010年の8.8％へと低下した。上海市の吸引圏は2000年の省のうえに、黄河中流地域の河南省が新たに加わった。比率をみると、近隣の安徽省、江蘇省からの流動人口が多く、それぞれ29.0％、16.7％である。ただし、その値は2000年のそれよりかなり低下している。これは上海市がより広範囲から流動人口を吸収しているといえる。

北部沿海地域をみると、最も多くの流動人口が集まった北京市は東部沿海地域の江蘇省、西南地域の四川省を主要吸引圏から外され、近年経済衰退の激しい東北地域の黒竜江省が新たに加わった。その中で、河北省、河南省は北京市の最も重要な吸引圏であり、それぞれ全体の22.1％、13.9％を占める。一方、山東省の場合は2000年と同様に、もっぱら東北地域の黒竜江省、近隣の河南省から転入してきた。天津市は2000年に省間流動人口が100万人に達していなかったが、近年その急増がみられた。その吸引圏は同地域内の河北省と山東省、及び近隣の河南省である。

周辺部にも流動人口の転入が多くみられる省がある。例えば、雲南省の場合は2000年の四川省、貴州省だけでなく、重慶市、湖南省からもの転入も多い。新疆ウィグル自治区は依然として四川省、河南省、甘粛省からの転入が多いが、四川省の割合は2000年のそれより大きく低下した。武漢市の所在している湖北省は2000年以降省間流動人口が急増し、100万人を超えている。その転入先は主に近隣にある河南省、重慶市、湖南省である。一方、成都市が所在している四川省はもっぱら近隣の重慶市から転入し、全体の26.5％を占める。

２．主要排出圏

１）2000年

2000年、省間流動人口の転出が多かったのは主に西南地域、長江中流地域、黄河中流地域、北部沿海地域と東北地域である。これらの地域はどこに人口を流出しているのかを考察する。

第５表は省別にみた排出圏の分布を示している。最も多くの流動人口を転出した四川省をみると、その排出圏は南部沿海地域、東部沿海地域であり、うち全体の41.0％が広東省へ流出した。同地域の重慶市、貴州省も四川省と同様に、東部沿海地域、南部沿海地域は主要な排出圏となっている。重慶市は主に南部沿海地域の広東省へ転出し、全体の32.1％を占めた。そのほか、近隣の四川省への転出も多く、全体の12.1％である。貴州省は主に南部沿海地域の広東省、南部沿海地域の浙江省へ転出し、それぞれ流動人口の37.0％、18.9％であった。広西チワン族自治区はもっ

第５表　2000年中国における省別にみた排出圏の分布

転出省	転入省																												
	北京	天津	河北	山東	山西	内モンゴル	陝西	河南	遼寧	吉林	黒竜江	上海	江蘇	浙江	安徽	江西	湖北	湖南	広東	福建	海南	広西	重慶	四川	貴州	雲南	チベット	甘粛	青海	寧夏	新疆
北京			●																●												
天津	●		●																●												
河北	●	●			●	●																									
山東	●	●	●						●		●	●	●						●												
山西	●		●			●	●	●											●												
内モンゴル	●		●	●	●				●		●																				
陝西	●		●		●	●													●												●
河南	●												●	●					●												●
遼寧	●		●	●		●				●	●								●												
吉林	●		●	●		●			●		●								●												
黒竜江	●		●	●		●			●	●																					
上海													●	●	●				●					●							●
江蘇	●											●		●					●												
浙江	●											●	●						●												
安徽	●											●	●	●					●												
江西												●		●					●	●											
湖北														●					●	●											
湖南																			●												
広東	●																	●		●	●	●		●		●					
福建	●											●	●	●					●												
海南																			●												
広西																			●												
重慶														●			●		●	●				●		●					
四川														●					●	●						●					●
貴州													●	●					●	●						●					
雲南				●									●	●					●					●							
チベット	●																		●					●							
甘粛						●	●												●										●	●	●
青海				●			●	●					●											●			●	●			●
寧夏	●					●	●												●									●			●
新疆	●			●								●	●						●					●				●			

注：●は排出圏を指す。
資料：中国2000年人口普査資料により作成。

ぱら近隣の南部沿海地域の広東省へ流出し、全体の90.6％を占めた。

続いて、流動人口の転出が激しい長江中流地域をみると、地域の中で転出が最も多かった安徽省の排出圏は北部沿海地域、東部沿海地域、南部沿海地域となる。その中で、近隣にある江蘇省と上海市は第１位と第２位であり、それぞれ25.9％と23.8％を占めた。転出が２番目に多い湖南省は圧倒的に近隣の広東省への流出が多く、全体の77.3％に達した。江西省と湖北省の排出圏も安徽省と同様に、東部沿海地域と南部沿海地域の両方が中心である。ただし、江西省は近隣の広東省、浙江省、福建省への流出が顕著であり、それぞれ43.8％、22.8％、18.2％である。湖北省の場合は広東省への流出が顕著であり、全体の半分以上を超えた。

周辺部においては黄河中流地域、東北地域の転出も顕著である。黄河中流地域にある河南省の排出圏は北部沿海地域、東部沿海地域、南部沿海地域に広く及んでいる。その中で、広東省への転出は全体の32.7％と最も多く、その次は全体の10.9％を占める北京市である。東北地域には黒竜江省の転出が顕著であり、うち同地域内の遼寧省への転出が最も多く、次いで北部沿海地域の山東省となる。

中心部には転出の激しい省もある。その１つは北部沿海地域の河北省である。主に同地域内の北京市と天津市、及び近隣の黄河中流地域の山西省と内モンゴル自治区に転出した。北京市と天津市への転出は第１位と第２位であり、それぞれ45.5％と16.6％を占める。一方、山東省の場合は北京市と天津市への転出がそれぞれ第１位と第２位であるが、東部沿海地域、南部沿海地域、東北地域にも及んでいる。

もう１つ注目しておきたいのは東部沿海地域にある江蘇省と浙江省である。その排出圏は東部沿海地域内の他省、南部沿海地域、北部沿海地域となっている。江蘇省は圧倒的に上海市への転出であり、全体の43.7％を占めた。浙江省は上海市、江蘇省への転出が多く、それぞれ全体の21.1％、12.9％を占める。

２）2010年

第６表は2010年の省別にみた流動人口の主要排出圏を示したものである。2010年には長江中流地域は最も多くの転出がみられた。当地域の中で転出が最も多かった安徽省をみると、その排出圏は2000年と比べて、より東部沿海地域に収斂している。転出が２番目に多かった湖南省は排出圏が南部沿海地域の広東省、東部沿海地域の浙江省となる。その中で、広東省の割合は全体の63.7％であるが、2000年の77.3％より低くなった。江西省の排出圏は2000年と同じく、東部沿海地域と南部沿海地域に及んでいる。その中で、広東省への転出は全体の32.3％と多いが、2000年の43.8％より低下した。代わりに、浙江省への転出は2000年の22.8％から2010年の26.4％へと増加した。湖北省の排出圏は東部沿海地域、南部沿海地域だけでなく、北部沿海地域の北京市にも及んでいる。そのうち、広東省への転出者は2000年の52.2％から2010年の39.6％へと減少した。

第６表　2010年中国における省別にみた排出圏の分布

転出省	転入省																												
	北京	天津	河北	山東	山西	内モンゴル	陝西	河南	遼寧	吉林	黒竜江	上海	江蘇	浙江	安徽	江西	湖北	湖南	広東	福建	海南	広西	重慶	四川	貴州	雲南	チベット	甘粛	青海	寧夏	新疆
北京		●	●									●	●						●												
天津	●		●																												
河北	●	●				●																									
山東	●	●										●	●	●					●												
山西	●	●	●			●	●												●												
内モンゴル	●	●	●	●	●				●																						
陝西	●					●						●	●	●					●												●
河南	●											●	●	●					●												
遼寧	●	●	●	●		●				●	●	●							●												
吉林	●	●		●					●		●								●												
黒竜江	●	●	●	●		●			●	●																					
上海	●												●	●	●				●												
江蘇	●											●		●																	
浙江	●											●	●						●												
安徽												●	●	●																	
江西												●		●					●	●											
湖北	●											●	●	●					●	●											
湖南														●					●												
広東	●											●	●	●				●		●	●	●									
福建	●											●	●	●					●												
海南																			●												
広西																			●												
重慶												●	●	●					●	●				●							
四川												●	●	●					●	●			●								
貴州													●	●					●	●											
雲南													●	●					●	●				●							
チベット							●																●	●					●		
甘粛	●					●	●					●	●						●											●	●
青海				●									●						●					●				●			●
寧夏	●					●	●																					●			●
新疆	●			●			●					●	●						●					●							

注：●は排出圏を指す。
資料：中国2000年人口普査資料により作成。

一方、浙江省への転出は2000年の8.8％から2010年の15.3％へとほぼ倍増した。このように、長江中流地域における流動人口の転出は、2000年の南部沿海地域から東部沿海地域へシフトしていく傾向が読み取れる。

次に流動人口の転出が２番目に多い西南地域をみる。転出が最も多かった四川省の排出圏は2000年の南部沿海地域だけでなく、東部沿海地域への拡大もみられる。その他、同地域内の重慶市にもある程度の転出がみられた。割合でみると、広東省と浙江省は高く、それぞれ全体の29.2％と13.9％を占める。ただし、2000年の41.0％と8.2％を比べると、四川省の排出圏としては東部沿海地域がより重要な役割を果たしているといえる。続いて、広西チワン族自治区をみると、その排出圏は東部沿海地域の広東省のみである。その割合は2000年より若干低下したが、依然として全体の85.0％を占める。３番目に多かった貴州省の排出圏は東部沿海地域、南部沿海地域であるが、近隣の雲南省への転出も少なくなかった。転出先としては浙江省と広東省が重要であり、それぞれ全体の37.0％と23.7％を占める。ただし、2000年の18.9％と37.0％と比べ、その排出はよ

り東部沿海地域へ集中している。重慶市の排出圏は2000年と比べ、東部沿海地域と南部沿海地域へのさらなる集中がみられた。ただし、その排出圏としては近隣の湖北省が外され、代わりに近隣の四川省が新たに加わった。割合としては広東省が26.6％と最も高く、2000年の32.1％より減少した。一方で、東部沿海地域の浙江省は2000年の9.6％から16.9％へと急増した。流動人口の転出が最も少なかった雲南省の排出圏は東部沿海地域、南部沿海地域、同地域内の四川省となっている。その中で、東部沿海地域の浙江省、南部沿海地域の広東省への転出はそれぞれ全体の27.7％と21.7％を占め、2000年の14.3％と19.3％より増加がみられた。

周辺部の黄河中流地域においては河南省が最も多くの転出がみられた。その排出圏は2000年と同様に北部沿海地域、東部沿海地域、南部沿海地域であるが、西北地域の新疆ウィグル族自治区が外された。その中で、当省の省間流動人口を多く吸収したのは浙江省、広東省であり、それぞれ全体の20.4％、14.2％を占める。ただ、2000年の6.5％と32.7％と比較すると、当省の転出は東部沿海地域への集中が進んでいるといえる。続いて、流動人口の転出超過がみられた山西省、陝西省の排出圏を分析する。陝西省の場合は南部沿海地域の広東省、東部沿海地域の江蘇省への転出が多く、それぞれ全体の22.4％、10.6％を占める。2000年の29.3％と3.8％と比較すると、陝西省の転出も東部沿海地域に集中している傾向がみられる。山西省の場合は主に近隣の北京市と内モンゴル自治区への転出であり、それぞれ24.8％と14.5％を占める。

周辺部の東北地域においては黒竜江省と吉林省の転出超過が観察された。吉林省の場合は同地域内の遼寧省への転出が最も多く、全体の21.9％を占める。次いで北部沿海地域の北京市、山東省への転出であり、それぞれ全体の15.6％と13.6％を占める。2000年の排出状況と比較すると、吉林省の省間流動人口はより北部沿海地域に集中する傾向が読み取れる。黒竜江省の場合は遼寧省への転出が依然として最も多いが、その割合は2000年の27.3％から22.3％へと減少した。次は北部沿海地域の北京市への転出であり、その割合は2000年の7.7％から2010年の15.8％へと大きく増加した。一方で、山東省への転出は2000年の18.9％から2010年の16.0％へと微減した。

中心部には北部沿海地域を中心に流動人口の転出超過もみられる。その中で、転出が多くみられた河北省は同地域内の北京市、天津市への流出は顕著であり、それぞれ41.6％、21.6％を占める。山東省の場合は同地域内の北京市、天津市だけでなく、東部沿海地域の江蘇省、上海市への転出も多くみられた。

Ⅴ．おわりに

本稿は人口センサスデータに基づいて、2000年以降中国の経済構造の再編が省間流動人口の分布にどのような影響を与えているのかを明らかにした。また、中国における中心部と周辺部の関係を解明したいため、本稿は地域を細分化して人口移動の分析を進めた。主な研究結果は下記のようにまとめられる。

省間流動人口の転入が激しいのは主に中心部の南部沿海地域、東部沿海地域、北部沿海地域であり、いずれも大きな転入超過となっている。ただし、北部沿海地域の河北省と山東省、東部沿海地域の江蘇省は省間流動人口の転出も顕著にみられた。これは主にこれらの省における省内の地域間経済格差が大きいため､経済の遅れた地域から労働力が転出したことによると考えられる。

周辺部にある諸省は中心部の状況と異なり、省間流動人口の転出が顕著である。その中で、長江中流地域、西南地域、黄河中流地域は大きな転出超過であり、省間流動人口の主要な排出圏となっている。周辺部にある東北地域と西北地域は国土の縁辺部にあるため、流動人口の転出入は盛んではなかった。しかし、西南地域の雲南省、西北地域の新疆ウィグル族自治区、相対的に経済が発展している東北地域の遼寧省はむしろ省間流動人口を多く吸収し、転入超過地域となっている。

移動効果指数から、転出超過地域とその転入先との関係が判明した。中心部の南部沿海地域と東部沿海地域はいずれの時点においても、周辺部の長江中流地域、西南地域、黄河中流地域からの一方的な転入となっている。一方、中心部の北部沿海地域は周辺部の長江中流地域と西南地域からの一方的な転入超過がみられたが、近隣の黄河中流地域と東北地域とは相互的な人口移動が観察された。

2000年以降省間流動人口の増加に伴い、中心部の吸引圏は近隣の周辺部から広範囲の周辺地域に及んでいることが判明した。また、周辺部には辺境貿易の盛んである一部の省だけでなく、省都の経済発展がみられた一部の省も流動人口の転入があった。

周辺部の長江中流地域、西南地域、黄河中流地域は、2000年以降依然として省間流動人口の主要な転出地となっている。しかし、その転出先は南部沿海地域から東部沿海地域へシフトしていく傾向が窺えた。東北地域は主に北部沿海地域の大都市、同地域内の遼寧省への集中が進んでいる。一方で、中心部においても省内の地域間経済格差の大きい省は大都市への転出が依然として存在している。

上記のように､本稿は構造転換期における中国の省間流動人口の空間特性を検討した。しかし、このような空間特性はどういう要因によってもたらされたのかについては解明に及んでいない。また、省間流動人口の空間的な転換を解明するには多くの実証研究も必要である。これらについては今後の研究課題としたい。

付記

本研究は、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム広島大学「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」及び JSPS 科研費 16K16956の助成を受けたものである。

注

1）東部地域は北京市、天津市、河北省、山東省、江蘇省、上海市、浙江省、福建省、広東省、海南省を指す。
2）中部地域は安徽省、江西省、河南省、湖北省、湖南省を指す。
3）西部地域は内モンゴル自治区、広西チワン族自治区、重慶市、四川省、貴州省、雲南省、チベット自治区、陝西省、甘粛省、青海省、寧夏回族自治区、新疆ウィグル族自治区を指す。
4）東北地域は遼寧省、吉林省、黒竜江省を指す。

文献

石川義孝（2001）：『人口移動転換の研究』京都大学学術出版会.

石原潤（2004）：2000年センサスに見る中国の人口移動 ―1990年センサスとの比較を通じて―. 10、1－20.

大友篤（1982）：『地域分析入門』東洋経済新報社.

大友篤（1996）：『日本の人口移動 ―戦後における人口の地域分布変動と地域間移動』― 大蔵省印刷局.

加藤弘之（2003）：『地域の発展』名古屋大学出版会.

佐々木信彰（2010）：中国経済構造の転換へ．佐々木信彰編：『構造転換期の中国経済』世界思想社，1-15.

陳林（2014）：中国における人口移動の特性とその変容．広島大学大学院文学研究科論集、74、45-70.

劉農，王勤学，一ノ瀬俊明，大坪国順（2005）：中国国内における流動人口の空間分布およびその要因分析．地理学評論、78、586－600.

Fan, C. C. (2005). Interprovincial migration, population redistribution, and regional development in China: 1990 and 2000 census comparisons. *Professional Geographer*, *57*(2), 295–311. https://doi.org/10.1111/j.0033-0124.2005.00479.x

He, C., Chen, T., Mao, X., & Zhou, Y. (2016). Economic transition, urbanization and population redistribution in China. *Habitat International*, *51*. https://doi.org/10.1016/j.habitatint. 2015. 10.006

Liu, S., Hu, Z., Deng, Y., & Wang, Y. (2011). The regional types of China's floating population: Identification methods and spatial patterns. *Journal of Geographical Sciences*, *21*(1), 35–48. https://doi.org/10.1007/s11442-011-0827-8

Liu, T., Qi, Y., Cao, G., & Liu, H. (2015). Spatial patterns, driving forces, and urbanization effects

of China's internal migration: County-level analysis based on the 2000 and 2010 censuses. *Journal of Geographical Sciences*, *25*(2), 236–256. https://doi.org/10.1007/s11442-015-1165-z

Liu, Y., Stillwell, J., Shen, J., & Daras, K. (2014). Interprovincial Migration, Regional Development and State Policy in China, 1985-2010. *Applied Spatial Analysis and Policy*, *7*(1), 47–70. https://doi.org/10.1007/s12061-014-9102-6

Liu, Y., & Xu, W. (2017). Destination Choices of Permanent and Temporary Migrants in China, 1985–2005. *Population, Space and Place*, *23*(1). https://doi.org/10.1002/psp.1963

Shen, J. (2010). Changing Patterns and Determinants of Interprovincial Migration in China 1985–2000. *Population, Space and Place*, *18*(5), 384–402. https://doi.org/10.1002/psp.668

Changing spatial pattern of interprovincial migration in China

Lin CHEN

Key words: temporary population, spatial pattern, core regions, peripheral regions, China

It is well known that migration is strongly related to regional economic development. Therefore, with the transition of the industrial structure of China, it is becoming an essential issue to clarify the redistribution of temporary population in the new era. Using interprovincial migration data from China's 2000 and 2010 population censuses, this paper aims to investigate how the transformation of industrial structure affects the spatial distribution of interprovincial migration of China in the 2000s. Through the analysis of the population censuses, it is evident that there is a great increase of interprovincial migration of China since the 2000s. To understand the changes in the spatial pattern of migration, I divided the provinces of China into core and peripheral regions. The results clearly show that the majority of inflow interprovincial migration is concentrated mainly in the core regions. With the continuous increase of interprovincial migration, the inflow migrants of the core regions are consequently changed from the neighboring peripheral regions in 2000 to the majority of the peripheral regions in 2010. At the same time, the outflow migrants of peripheral regions are also shifting their destinations from the southern coastal provinces to the eastern southern provinces within the core regions. However, in the core regions, there are also some provinces that have a large number of outflow migrants because of large regional economic gaps that exist within the same provinces. Moreover, it is also very interesting to find that provinces close to border areas and provinces that are achieving economic development with the growth of provincial cities in the peripheral regions are starting to attract inflow migrants from neighboring provinces. The latter phenomenon in particular is a new trend occurring in the spatial pattern of temporary migration from the 2000s that calls for further attention.